

総務文教

十月七日から九日までの日程で、香川県丸亀市の「自治基本条例」と坂出市の「包括外部監査」について調査視察をした。

丸亀市の自治基本条例は、市民、各種団体・企業、行政が市政の基本原則を共有し、参加と協働を通して、まちづくりを進めていくために必要な考え方や仕組みを制度化するものである。行政とそこに住む住民が、創意工夫を凝らし、自らの

考えと責任において自立的な地域運営が可能となるものでした。

坂出市は、平成十四年度より行政の透明性を図るため、行政の経済性・効率性・有効性をチェックする包括外部監査を実施。市の組織に属さない外部の専門的な知識を有する第三者に公平な立場で監査するもので、年度ごとに、水道・下水道事業、人件費や人員配置と委託事務、資産管理、市立病院の自立性、市の債務、市の補助金などの監査を行っていた。これにより、経費

観光経済

八月十九日から二十二日の日程で、北海道小樽市・帯広市・岩見沢市の各市の事業について視察した。

その中で、帯広市の「バイオマスタウン構想」は、地域で発生するニンジン・長芋等の残渣を家畜飼料として利用することで、酪農経営の健全化を図るとともに循環型・環境保全型の地域社会づくりの一旦を担う事業等である。

また、民間企業等ではバ

イオディーゼル燃料精製装置等に取り組み、市も公共施設へのペレットストーブ・太陽光発電システムの導入等に取り組んでいることから、官民一体となつて環境に配慮した地域社会づくりを推進していることがうかがえる。

本市においても同様の構

想が国から認可されており、現在の社会情勢を考えると、市にとつても有益な事業の一つになるのではないだろうかと考える。

そのほか、小樽市での「小樽フィルムコミッション」

節減、収入額の増、事務事業の適正化・効率化、職員に生じた緊張感などが上げられた。当市においても、取り組む必要性を強く感じられた内容であった。



坂出市での総務文教委員

常任委員会視察報告

や岩見沢市での「地域雇用創造推進事業」等視察した事項を踏まえ、今後の市政に反映させていきたい。



岩見沢市での観光経済委員

民生福祉

八月十九日から二十二日まで、網走市の「自然と人にやさしい環境づくりプロジェクト」と「エコセンター2000（交流センター）」、根室市の「ねむる自然の番人宣言」と「根室市つどいの広場を活用した子育て支援事業」、砂川市の「地域交流センターゆう」を調査視察した。

網走市では、市民、行政、

事業者が連携し、「オホーツクの海、美しい湖、住んだ空気を育てる環境意識の高い市民が生き生きと暮らすまち」を目指し、マイカー通勤自粛、公共交通機関の利用促進、安全で良質な水確保のための植林、悪臭監視パトロールの実施的に取り組んでいる。

根室市では、自然と環境を守り、後世に美しい自然を引き継ぐために「自然の番人宣言」を行い、賛同する企業、事業所の車輛にステッカーを貼って啓発を行

建設

十月八日から十日までの日程で、和歌山県橋本市の「緑の基本計画」及び海南市の「市道整備支援事業」について調査視察をした。

その中で、海南市の「市道整備支援事業」は、「自分たちでできることは、自分たちでする」という協働によるまちづくりの一環として実施している支援事業

で、市が設計及び原材料の

提供等を行い、地域が工事に必要な労力等を負担する制度で、地域住民が通行する道路を自らの手で整備してもらおうという支援事業である。

従来からの行政主導による道路整備に加え、この事業により、地域の要望にも広く対応でき、近年希薄化しつつある地域コミュニティ内の交流や連帯感の強化、さらには、ふるさと意識の高揚を啓発・推進ができると考えられる。

費用面でも市発注工事積算額と比較しても、四五・

い、不法投棄の抑止効果を図るほか、不法投棄の通報などを行っている。

そのほか、地域交流施設、子育て支援施設を視察したが、いずれも、建設から運営まで、市民の声を取り入れ、利用者サイドでのユニークな運営を行っている。



砂川市での民生福祉委員

1%と費用が半分以下となっているとのことである。

当市の道路整備整備においても、財政面等から参考となる事例の一つであると考えられる。



海南市での建設委員